

基地跡地見学会（令和7年7月11日）見学後アンケートの意見要点

1) 緑地の価値の再認識

参加者の多くが、朝霞市の中心部に残された広大な緑地を、市や国にとっても貴重な「宝」「財産」だと認識している。

- ・ 武蔵野の面影を残す貴重な自然資源として、その価値を高く評価。
- ・ 市街地におけるグリーンインフラとしての機能や、心地よい「みどりの風」を感じられる場所としての魅力を挙げている。
- ・ 手を加えすぎず、ありのままの形で後世に残すべきだという意見が複数あり。

2) 活用と開放に関する要望

現状ではほとんど活用されていない状況を「もったいない」と感じ、市民が利用できる形での活用を望む声が多数あり。

- ・ 遊歩道や散歩道として開放し、市民が自然に触れる機会を増やすことを提案。
- ・ 環境学習の場として、小中学生など若い世代が利用できるようにすることや、季節ごとの見学会・生物観察会の定期開催を希望。
- ・ 国有地全体を「朝霞の森」として市民に認知させ、親しんでもらうことを期待する意見。

3) 緑地の現状と課題

緑地の保全・管理の現状については、いくつかの懸念点や具体的な課題が指摘された。

- ・ 整備がなされておらず、森が荒れているという印象を受けたという意見。
- ・ 立ち枯れした木や、シュロ、ツタ類などの植物が繁茂している状況が報告された。
- ・ 竹の伐採など、適切な管理の必要性を訴える声や、早期の植生調査の実施を求める意見。
- ・ 米軍基地時代の建物が老朽化していることや、遺構が朽ちていく前に記録として残してほしいという要望。

このほか、見学会の定期開催や、市民への情報提供を増やすこと、適正な維持管理を国に働きかけることの重要性も指摘された。